

り。冬期駝商の隊を組み、て往來するもの頗る多し、地形は南六里を隔て、天山を仰ぎ、地面北に向て傾斜し、十餘里の處に一沙丘の東西に走る有りて、比高一般三丈餘、長さ八里に亘り、其の東端は故城の北北東に對す、丘の北方は一面開闊なる戈壁の地たり。城の内外に柳榆多く、二條の小河は、其の南山麓より出で、北流し、附近全部は耕地及び牧地を成せり。

故城科布多間

故城より蒙古の科布多に通ずる大道は、十四日にして達すべく、全部沙磧にして、行程は長短不定なるも、平均十二三里とし、各驛には住民なく、唯空房の處々に存在するのみ。又額魯齊斯河畔のドルブルジンに達するには、駝行十三日行程なりと。更に科布多、烏里雅蘇臺間は、十四日行程、烏里雅蘇臺以東は六十四日行程にして張家口チャカオに達すと云ふ。

故城歸化城間

故城より直ちに歸化城クイフワチエンに至る道路は、商路と稱して、即ち駝路、九十八日行程、約一千七百里あり、此の間駝隊は、唯水草ある處を以て宿泊地と定むるも、蒙古に入れば部落處々に散在して、其の多きも七八戸、少なきは、二三戸に過ぎずと。又故城東行の大道所謂北路は、約十三里にして奇臺チタイ人家三百餘、同じく十三里餘にして木

故城と北路